第2期遠軽町まちづくり会議（令和元～2年度）の進め方（案）

遠軽町総務部企画課

○まちづくり会議とは

- 「合併特例法」に基づき、新町において旧町村の意見を合併新町に反映するために４つの地域に「地域審議会」を設置
- 合併１０年をもって地域審議会を廃止、後継の枠組みの設置要望があったため、平成 28 年度に新たな形として「まちづくり会議」を４地域に設置
- ４地域ごとに 10 名以内(1)まちづくりに関し識見を有する者、(2)公募による者、(3)その他町長が特に認める者を委員として町が委嘱。第２期においては、各地域８名、計 32 名を委嘱
- 設置期間は、令和２年度まで

○第１期まちづくり会議の経過（平成２８年度）

遠軽町まちづくり会議を設置しました。

市町村の合併の特例に関する法律に基づき、各地域ごとに設置されていた地域審議会の設置期間が平成28年3月31日で終了したことを受け、まちづくりについて広く意見を交換できる場として、町では遠軽町まちづくり会議を新たに設置しました。

まちづくり会議は旧町村の区域ごとに設置し、各会議とも各種団体からの選出や公募による委員10人で構成されています。

設置後、初めてとなる会議が9月20日に生田原・遠軽地域、21日に丸瀬布・白滝地域、それぞれ合同で開催され、各委員に委嘱状が交付されました。

今回の会議では、それぞれの会議ごとに会長及び副会長が選任されたほか、平成28年度以降の町の主な事業の説明、佐々木修一町長によるまちづくりについての講話、意見交換会が行われました。

意見交換の際、各委員の皆さんからさまざまな意見が寄せられたので、その内容を一部お知らせします。

■公園の遊具について

【町からの質問】

町民アンケート等で、公園の遊具の充実を求める要望があります。実際にどのような施設を利用したいと思いますか。

また、例えば、郊外に公園を整備した場合、利用するでしょうか。

【委員の意見】

近隣市町村に、いくつか無料で利用できる施設があるが、町内にそういった施設があれば利用したいという話をよく耳にする。

ちゃちゃワールドの施設の中に、子どもが遊べるスペースがあるが、混雑時は順番待ちになってしまうので、そういったスペースが充実されれば利用しやすくなると思う。

また、町外へ行くことを考えたら、郊外にあっても良いと思う。

■学校の存続について

【委員の意見】

少子高齢化で児童数が減っていく中で、地域の学校の存続は子育て世代にとって重要な問題である。町としての考えを教えていただきたい。

【町の考え方】

地元の方々の意見を尊重したいと考えています。

■1次産業の担い手対策について

【委員の意見】

大規模な機器導入に対する補助ばかりではなく、中小規模の農家に対して支援するなど、1次産業従事戸数を増やすような対策をしてほしい。

【町の考え方】

農業の担い手確保や新規就農に関しては、2年前から手法を変え、専任の職員を配置して取り組んでいるところです。

■まちづくり会議の在り方について

【委員の意見】

合併後10年が経過し、新たな会議を設けたのに、まだ旧町村の地域割りで会議を持つことに疑問を感じる。旧町村の垣根を外して、一つのテーブルを囲んで話す場を設けることで、共通認識を持ちやすくなり、課題や状況が見えるのではないか。

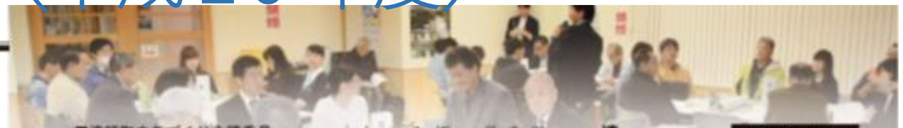
【町の考え方】

今後、各地域代表者による全体会議の開催を予定しているほか、お互いの委員同士が交流できるような場となるよう、開催方法を検討していきます。

なお、次回の会議は、年内に開催する予定です。

問企画課☎42－4818

○第１期まちづくり会議の経過（平成29年度）



遠軽町 まちづくり会議

町民の皆さんとともにまちづくりを考えます。

遠軽町まちづくり会議とは

平成17年の４町村合併に伴い、旧町村の区域ごとに「地域審議会」を置き、各地域の意見を新町の運営に反映してきました。

この地域審議会は、10年間を区切りに廃止し、これに代わる仕組みとして、新町誕生11年目の昨年、「地域まちづくり会議」を設置しました。

この会議は、４つの地域ごとにそれぞれの地域に住んでいる、または勤めている方を10人ずつ委嘱しています。

なお、現委員の任期は平成31年３月31日までとなっています。

■遠軽町まちづくり会議委員

生田原地域まちづくり会議	
多賀章雄	遠藤麻由
堀江都	和田あさみ
由利敏之	◎丹木廣隆
高橋淳	大堀清美
渡部正騎	○杉本一幸
遠軽地域まちづくり会議	
◎宮崎良公	○大平芳人
生出竜也	竹之内義文
村上武志	斉藤ひとみ
橋口理教	藤田琴絵
斉藤晴行	平野由美子
丸瀬布地域まちづくり会議	
◎柳田友之	関弘
菅野浩太郎	○上野尚博
谷口寿康	須藤奈都美
鈴木幹雄	板正あすか
佐竹聡子	湊秀克
白滝地域まちづくり会議	
岩城健嗣	○大久保真由美
◎矢木優	江面陽子
山崎幸治	古寺博
内河智美	中村祥嗣
的場秀太	今野政男

◎会長○副会長　（順不同・敬称略）

■今年度のまちづくり会議の開催方法

今年度は、各地域まちづくり会議で１～２回会議を開催してまちづくりへの提言をまとめていただき、全体会議で発表していただきました。

生田原地域	遠軽地域	丸瀬布地域	白滝地域
8月4日 9月27日	8月7日 9月4日	8月9日 9月7日	7月31日

４地域の会議でまちづくりに対する提言のまとめ

↓

全体会議　11月6日

各会議の代表者が提言を発表

■各地域まちづくり会議の提言項目

地域	提言項目
生田原地域	・子ども向け体験イベントの開催 ・公共交通を絡めたスタンプラリーの開催 ・湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会生田原コースの創設 ・大学と連携して農業労働力を確保
遠軽地域	・コミュニティラジオ局の開設 ・保育士、介護士の待遇改善 ・全町合同運動会の開催
丸瀬布地域	・子育てがしやすく若者が定住するまちづくり（保育サービスの充実、公営住宅整備、子ども医療費の無償化） ・観光振興による地域活性化（道の駅まるせっぷにキャンピングカーを誘致、太平高原の整備と活用、大規模林道再開）
白滝地域	・人口減少・人手不足対策 ・買い物・外食対策 ・環境美化・整備

遠軽駅待合室 机と椅子が設置されました！

白滝地域まちづくり会議で出された「駅の待合室に机があると、通学生が待ち時間に勉強できる」という意見を、JR北海道遠軽駅に伝えたところ、同駅の配慮により、待合室に机２脚と椅子６脚が設置されました。

対応していただいた同駅関係者の皆さん、ありがとうございました！

■主な提言内容

生田原地域からの提言

公共交通を絡めたスタンプラリーの実施

発表　遠藤委員

広い町内をつなぐ公共交通は、高齢化が進む今後、今まで以上に重要になっていきます。

しかし、車が普及し、利用者が少なくなったことで便数が減り、不便になり、さらに利用が減るという悪循環に陥っています。なんとか公共交通の利用を増やさないと、交通弱者が住めない町になってしまいます。

この対策として、公共交通に乗って町内の観光スポット巡りをしてもらうスタンプラリーを提案します。

公共交通の利用促進とともに、町内に点在している魅力的な場所をつなげ、周遊してもらうことで経済効果を生むことが狙いです。

丸瀬布地域からの提言

道の駅まるせっぷにキャンピングカーを誘致

発表　柳田委員

道の駅まるせっぷにキャンピングカーを誘致することを提案します。調べたところ、高規格道路の延伸で、道の駅まるせっぷの利用者が前年比40％ぐらいに減っています。

今後、この数を増やしていくための方策として、ここ11年ほどの間に倍増しているキャンピングカーにターゲットを絞ってはどうかと思います。

キャンピングカーは、中高年の方がよく利用していて、同じ場所に長期間滞在するといった傾向にあります。キャンプ愛好者同士のネットワークにより、口コミでの広がりも期待できるのでないでしょうか。

遠軽地域からの提言

コミュニティラジオ局の開設

発表　平野委員

地域の情報を音で伝える発信方法として、ラジオに着目し、地域ラジオ局の開設を提言します。

遠軽町には、すでに良いものや良いところがたくさんあることをみんなで再認識しました。特産品や観光資源に魅力がないのではなく、その魅力を伝える「情報」を届けることがより必要です。

町では広報紙やホームページで情報を発信していますが、お年寄りや仕事で忙しい方にはなかなか見ていただけていません。ラジオなら、家事や屋外での作業中にもつけっぱなしにしておくと自然に情報が伝わりますし、車で移動中も聴くことができます。運営に町民参加を得ることで、地域の情報サロンとして機能し、地域コミュニティの活性化も期待できるのではないでしょうか。

また、最近では、北朝鮮のミサイル発射問題でＪアラートが注目されていますが、防災情報をいち早く届けるという効果も期待できます。

白滝地域からの提言

買い物・外食対策

発表　大久保委員

白滝地域は、Ａコープが閉店し、生鮮食料品を地域内で買うことができません。車を運転できる人は遠軽などで買い物できますが、できない人は移動販売車や宅配サービスを利用するしかなく、不便を感じています。

同時に市街地唯一の食堂も無くなっています。公共交通も便が少なく不便です。一方で、お店を維持するには地域の方たちが、買い物をして支える必要がありますが、これまでうまくいかなかったこともあり、町の支援などが必要と考えます。

■今後の提言の取扱いについて

各まちづくり会議からいただいた提言については、町として最大限に尊重した上で、実現可能かを検討します。実現できない場合は、どういった課題があるのかを町のホームページや来年度以降のまちづくり会議にも示したいと考えています。

■まちづくり会議の内容は遠軽町ホームページで

まちづくり会議の資料、会議録、提言などは遠軽町ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

■まちづくり会議のお問い合わせ

企画課（☎42－4818）までお気軽にどうぞ。

○第１期まちづくり会議の経過（平成 30 年度）

平成30年度遠軽町まちづくり会議

■まちづくり会議で出た意見の一部を紹介します

谷口委員

子育て環境

- 少子化でも子どもが好きなスポーツができる環境づくりを
- 保育士の確保対策
- 子どもの医療費負担の軽減を

岩城委員

災害対策

- 冬に大規模停電が起きたときの備えを！！
- コミュニティラジオなど災害時の情報伝達手段の確保を

観光・農林業

関委員

- コミュニティラジオで情報発信しては？
- 宿泊施設を増やす
- 農林業が基盤

移住・定住

斉藤委員

- 空家を活用して移住者を受け入れる
- 外国人の受入
- 合同企業説明会
- 町の魅力をもっとＰＲする！

医療・福祉

生出委員

- 介護人材確保にはイメージの改善を
- 公共交通を便利に
- 医師確保を更に

教育・文化

平野委員

- 「オホーツク文学館」や「えんがる歴史物語」などいいものをもっと周知
- 青年活動の活性化
- 子ども版まちづくり会議を開催
- 町の一体感のため合同運動会を開催しては？

■町長からの講評

- アイディアはどんどん出して。100出して１当たれば良い。
- 意見のほとんどが、これまでの町や議会での議論と同じ方向性を持っている。皆さんと課題は共有できていると感じた。４地域の一体感などの考えも共有されていて心強い。
- 現在編成している新年度予算案も大幅な財源不足となっている。人口減少など抱えている課題に対応していくためには、スクラップすることも必要。

▲まちづくり会議の報告に対して講評をする佐々木修一遠軽町長

遠軽町まちづくり会議委員（2019年度～2020年度）を公募します！

遠軽町では、旧4町村の区域ごとに各10名のまちづくり会議委員を委嘱し、まちづくり全般に対し広く意見をお聞きしています。現委員の任期満了に伴い、次のとおり委員の一部を公募しますので、ぜひ応募してください。

- ■募集人数　旧4町村の区域ごとに各３名
- ■応募資格　平成31年４月１日時点で18歳以上の方で当該地域に住所を有する又は勤務されている方
- ■任　　期　委嘱の日から平成33年３月31日まで
- ■応募方法　２月15日（金）までに所定の応募用紙に必要事項を記載し、郵送、持参、ＦＡＸ、電子メールのいずれかの方法で役場企画課に提出してください。応募用紙は企画課で配布するほか、ホームページからダウンロードできます。
- ■選考方法　応募があった方から適任と思われる方を選考し、本人に直接通知します。

申込・問 〒099-0492遠軽町1条通北3丁目　遠軽町総務部企画課
☎0158－42－4818　FAX0158－42－3688　電子メール　kikaku@engaru.jp

平成30年度 遠軽町 まちづくり会議

遠軽町まちづくり会議とは

平成17年の４町村合併に伴い、旧町村の区域ごとに「地域審議会」を置き、各地域の意見を新町の運営に反映してきました。

この地域審議会は、合併10年を区切りに廃止し、平成28年度から新たに「地域まちづくり会議」を設置し、各地域10名の委員を委嘱して、まちづくりについて意見をお聞きしています。

■遠軽町まちづくり会議委員（平成31年1月1日現在）

生田原地域	遠軽地域	丸瀬布地域	白滝地域
◎丹木廣隆	◎宮崎良公	◎柳田友之	◎矢木　優
○杉本一幸	○大平芳人	○上野善博	○大久保真由美
遠藤麻由	生出竜也	菅野浩太郎	岩城健義
大柳清美	斉藤晴行	近藤奈都美	内河智美
多賀憲雄	斉藤ひとみ	佐竹聡子	江面陽子
高橋　淳	竹之内義文	鈴木幹雄	今野政男
堀江　都	横口理教	関　弘	中村祥嗣
由利敏之	平野由美子	谷口尊康	古寺　博
渡部正騎	藤田琴絵	塘　秀克	的場秀太
欠員	欠員	能正あすか	山崎幸治

◎会長○副会長　任期：平成31年3月31日まで

■今年度のまちづくり会議の開催方法

現委員は任期３年目で最終年度となることを踏まえ、昨年度まで議論したことをベースに地域ごとに議論を深めました。さらに全体会議においては、各地域の委員が入りまじってテーマごとに対話する「ワールドカフェ※」を行い、地域間の情報交換と交流を深めました。

※ワールドカフェとは、カフェのようなリラックスした雰囲気で少人数でメンバーを入れ替えながら対話を重ねることで自由な発想を引き出すとともに、参加者同士の関係性を築くことができる会議手法。

▲まちづくりワールドカフェの様子

地域まちづくり会議

遠軽地域	白滝地域	生田原地域	丸瀬布地域
10月22日	10月24日	10月26日	11月14日

遠軽町まちづくり会議全体会議

全体会議
12月17日　遠軽町福祉センター

■第１部　まちづくりワールドカフェ

①子育て環境　②災害対策　③移住・定住
④観光・農林業　⑤教育・文化　⑥医療・福祉
の６つのテーマで４～５人の小グループでメンバーチェンジをしながら対話しました。

■第２部　まちづくり会議報告会

各地域まちづくり会議での議論や第１部のワールドカフェでの意見交換について、委員から報告。町長が報告に対して講評を行いました。

主な意見等は次頁に掲載。詳しい発言内容や資料などは、町ホームページをご覧ください。http://engaru.jp

生田原地域
遠藤委員

遠軽地域
宮崎委員

丸瀬布地域
菅野委員

白滝地域
矢木委員

町民の皆さんとともにまちづくりを考えます。

○第２期まちづくり会議への期待

- 町村合併から１５年が経過する中で、各地域の実情に応じつつ、一つの町としてのあるべき姿を検討
- 若者や女性の意見を反映した魅力的で個性的なまちづくりへの提言

○会議開催スケジュール（案）

令和元年度

２月３日　全体会議

・町長講話、進め方説明、総合計画に対する意見など

２月～３月　地域会議

・企画課話題提供、討議テーマ検討など

令和２年度

８月～１０月　地域会議（１～２回程度）

１０月～１１月　全体会議（町長に地域会議の報告、全体討議）

○町から話題提供（次回以降、内容は検討中）

- 公共施設の見直しなど１つの町としてのあり方
- ふるさと納税の促進
- 道の駅遠軽森のオホーツク、遠軽町芸術文化交流プラザ等の活用
- 高規格道路網の延伸など機会を生かしたまちづくり
- その他

○会議の公表

広報「えんがる」や町ホームページで概要を公表